

「震災死」テーマに本出版

今年1月、仙台市の東北学院大学教養学部地域構想学科の金菱清教授のゼミから、東

日本大震災の「震災死」をテーマにゼミ生7人の調査結果をまとめた本が出版された。

その中でゼミ生である同大言語文化学科4年の工藤優花さん(22)は、大きな津波被害を受けた宮城県気仙沼、石巻地域の住民に話を聞き、彼らが体験した「幽霊現象」を考察している。この研究を通し、彼女が伝えたかったことは何か。

震災発生時、工藤さんは故郷である秋田県の高校2年生。直接的な被害はほとんどなかった。しかし環境社会学についての講義をする教授に魅力を感じて入ったゼミで、

今年1月、仙台市の東北学院大学教養学部地域構想学科の金菱清教授のゼミから、東日本大震災の「震災死」をテーマにゼミ生7人の調査結果をまとめた本が出版された。

高校での学びや、1、2年生で受けた講義などから「輪廻転生」というものに興味を持っていた工藤さん。被災地で多く聞かれた霊的現象にテーマを絞るまでは良かった

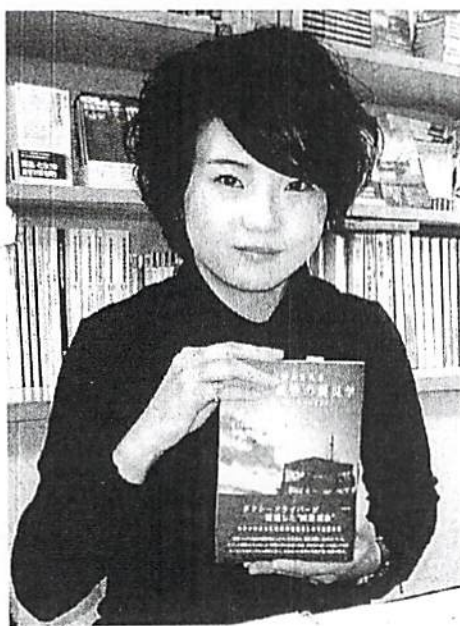
が、フィールドワークの経験が、フィールドワークの経験が、フィールドワークの経験が、

「今週もまた怒らねない。津波で家族や親類縁者を亡くした人も多く、「不謹慎だ」と追いつ返される日々が続いた。「今週もまた怒らねない。津波で家族や親類縁者を亡くした人も多く、「不謹慎だ」と追いつ返される日々が続いた。」

「今週もまた怒らねない。津波で家族や親類縁者を亡くした人も多く、「不謹慎だ」と追いつ返される日々が続いた。」

大楽人

東北学院大4年
工藤優花さん (22)



くどう・ゆうか 秋田県出身。東北学院大学教養学部言語文化学科4年。趣味は音楽。学外のバンド活動にも積極的に参加している。

徐々に本題へ。思いを胸に秘めていた人も、自分が体験した霊的体験を次第に語りだしてくるようになった。ついに、地元住民約100人、タクシードライバー100人以上に聞き取りを行った。

「早稲田大・木村由布花、写真も」

毎日 3月17日 (キヤンパ)